

講義名称	英米文学	担当教員名	小林 俊哉
科目群	英語 (ENG)		
科目区分等	進学と留学 CA7 DI5	単 位	2
対象学年次	2年・春学期	ナンバリング	ENG253

授業のキーワード	英米文学、小説、演劇、詩、エッセイ
授業の概要	英米文学の文学史や時代思潮を概観しながら、可能な限り作品テキストにふれることにより磨き抜かれた「言葉」の持つ力や「文学」の持つ魅力を探ります。なお本講義は英文を読む授業ではありません。
期待される学習成果 (目標)	1. 文学とはどのようなものなのかがわかります。 2. イギリスの時代思潮とその文学の概要を理解できます。 3. アメリカの時代思潮とその文学の概要を理解できます。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	導入	合理主義万能に見える現代における「芸術」の持つ意味をお話しします。
2	文学を論じるとは	期末課題などのために作品を読みますが、文学を考え論じることについてお話しします。
3	文学へのお誘い	文学の仕組み、読者に訴える力を構成する要素について学びます。
4	文学へのお誘い	前講に引き続き、文学の仕組みを概観します。
5	イギリス文学	イギリス文学の全般を学びます。
6	イギリス文学	前講に引き続き、イギリス文学の特徴を学びます。
7	アメリカ文学	アメリカ文学の全般を学びます。
8	アメリカ文学	前講に引き続き、アメリカ文学の特徴を学びます。
9	シェイクスピア	四大悲劇を中心に、シェイクスピア悲劇の構造を検証します。
10	ロマン主義の作家たち	きら星のごとく現れたイギリスロマン主義の作家たち。代表作品を読み解きます。
11	ホーソン	代表作『緋文字』を手がかりに、アメリカにおけるロマンティズムを概観します。
12	トウエイン	『ハックルベリー・フィンの冒険』を中心に、アメリカリアリズム文学について学びます。
13	フィッツジェラルド	『華麗なるギャツビー』を素材にして、なぜこの作品が悲劇なのか、その精緻な仕掛けを学びます。
14	ヘミングウェイ	『日はまた昇る』、『武器よさらば』を中心に、このノーベル文学賞受賞作家を探ります。
15	現代作家たち	第二次世界大戦以降の英米作家の作品とそれらの意味を学びます。

定 期 試 験	期末課題の提出を、定期試験に代替します。
授 業 時 間 外 学 習	1～5週→英米文学の基礎の予・復習をする。6～10週→指定された米作家についての資料を読む。11～15週→指定された英作家についての資料を読む。
評 価 方 法	中間課題40%、期末課題60% (期末課題のために作品を読んでもらいますが、すべて和訳を使います)
使用する教科書 (必ず購入してください)	西田実 『アメリカ文学史』(成美堂) このほか必要な資料を適宜配付します。
参 考 文 献	